

誓願寺せいぐわんじは京極三条きやうごくさんじょうにあり、浄土宗じやうとそうにして深草流義ふかくさりうぎの一本寺いつぽんじなり、本願ほんぐわんは天智天皇てんちてんわう、開基かいきは惠隱僧都ゑいんそうづといふ。「初はつは和州平城しやうならにあり、桓武天皇遷都くわんむの後、上京かみ元誓願寺もとせいぐわんじ通小川こがはの西にうつす、專貞法師せんてい源信僧都げんしんそうづも暫せんこゝに住し、十余世の後藏俊僧正さうしゆん、法然上人はふねんの法徳に帰入し浄土宗となる」本尊阿弥陀仏は長八尺の坐像にして、仏工賢問子芥子国ふつくけんもんしけしこく兩人の作なり。又春日大明神かすが夜々影向ありて扶助し給ふ故に、春日かすがの神作ともいふ。「仏面に朱字の名号あり、これ天智帝てんちていの宸筆なり、腹内に五臓六腑あり、稀代の靈仏にして奇驗古今に著し」額はだいかくじくうしやうはふしんわう大覚寺空性法親王の筆。「当寺再興大施主大相国北御方佐々木京極女為二世安楽べん也と書す」六字額は一遍上人の筆なり。堂内の壇上には天智帝てんちていの宸影おん、慧隱和尚の影を安ず。三重塔は元和八年の草創にして、本尊は谷薬師なり。開山堂には法然上人はふねんの像あり。釈迦堂しやかたうには宝冠釈迦仏を安置す。鎮守は春日明神なり。五輪石塔は秀吉公ひでよしの愛妾松丸殿あいせふまつまるの墓なり。「法名は寿芳院月晃盛久じゆほうあんげつくわうせいきうせんちやうに禪定尼と銘す、当寺再興の施主ゆへ檀那塔と称す」辨慶石べんけいは方丈の庭にはつきやま仮山の上にあり。「いにしへは三条京極の西辨慶町べんけいにありしとなり」柏石は小方丈の西手洗鉢の本にあり、羽二重井は方丈の前にあり。当寺の什物に烟除仏舍利あり、弘法大師よりの伝来とぞ。又法然上人はふねんの一枚起請を美嘆す、一休和尚きうおしやうの筆あり。「表具の中縁は紫地の牡丹からくきにして、古竹屋町こたけやまち織なり、小縁は萌黄地の宝づくし、是を誓願寺切とも、安楽庵あんらくあんともいふ」其文に曰。「口に法然上人はふねんの一枚起請あり略之」

伝聞法然活如来

安坐蓮華上品台

尼入道同愚痴輩

一枚起請文最奇哉

南无阿弥陀仏

此外達磨だるま虚堂きだういらぬもの唯はふ法然ねんの一大事と

存奉る我等今日より浄土宗に成申候穴賢く

応仁二年二月五日

薪酬たきま恩院主しうおんあんじゆ

一 休 判

仏御所さま

当寺の境内には紅梅数株あり、如月の頃は都下の人々こゝに來り、未開紅の艷色を賞して美觀とす。

立ならぶ木もふるびたり梅花

舎

羅

塔中竹林院には小堀遠州こぼりえんしうの数寄屋あり。〔これを遠州えんしうの八窓といふ〕庭中の風景絶倫なり。同長仙院ちやうせんあんの庭佳境なり、世に名高し。